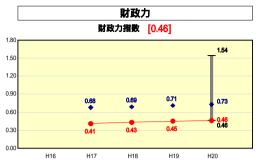
市町村財政比較分析表(平成20年度普通会計決算)



財政機造の強力性

経常収支比率 [89.4%]

74.4

H20

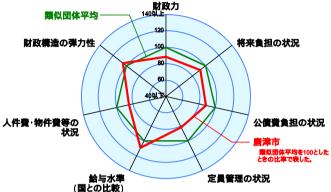


佐賀原市町村平均

8/30

在實際市町村平均





類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体

平成21年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない 団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。

給与水準 (国との比較

ラスパイレス指数 [96.0]

H18

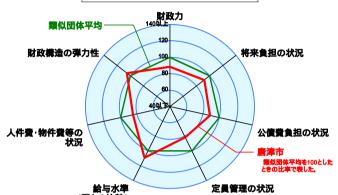
充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。

90.9

98.3

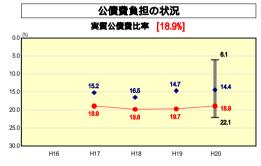
103.3

H20



将来負担比率 [163.3%] 119.0 H16 H17 H18 H19 H20

重似用体内置约 1000 在實票市町村平均



将来負担の状況

無似団体内層位 24/30



類似团体内质位 37/38



H17

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [133,583円]



類似団体内層位 114 142

人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし 人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

90.0

93.0

96 (

99.0

102.0

105.0

1080

H16

H17

ラスパイレス指数 H17年度93.1から少しずつ上昇しているもののH20年度は類似団体平均を2.3下回る96.0となって おり、今後も給与の適正化に努める。

H19

将来負担比率

复似团体内层位

7/39

100.0

200.0

300.0

400.0

H20年度は公営企業債等対する繰入見込みが増加したため163.3%と前年度と比較して11.1%増加 しており、類似団体平均を上回っている。今後の事業実施については、市総合計画の計画的な推 進を図り、財政の健全化に努める。

類似団体平均を4.5%上回って18.9%となっているが、H19年度より0.8%改善している。その要因とし ては、普通交付税が増加し標準財政規模が7%程度増加したことが主なものである。今後の借り入 れに当たっては、高率の交付税措置のあるものを優先し、改善に努める。

人口1,000人当たり職員数

大型合併により類似団体と比較し職員数が多く、H20年度は類似団体平均を2.17人上回る9.52人 となっている。また、市の面積も広大で、類似団体と比較し、支所出張所を多く配置しなければなら ないことから、H17年度と比較すると類似団体が0.71人減少しているのに対し0.41人の減少にとど まっているが、今後とも定員適正化計画に基づき適切な定員管理に努める。

分析機

80.0

901

100.0

110.0

財政力指数

合併後のH17年度からの4年間は0.41から0.46とわずかに伸びているものの、中小企業や農林 水産業が中心のため、財政基盤が弱く、類似団体中最小値で推移している。市税収納率向上対策 に基づき税収の確保に努めるとともに、退職者不補充等による定員管理の適正化等による人件費 の削減、「総合計画の実施計画」に基づ〈事業の重点化等により歳出抑制に努める。

H17年度92.7%から少しずつ改善し、H19年度から類似団体平均を下回っているものの、H20年度 89.4 %と比較的高い水準にある。市町村合併による職員数(人件費)増がひとつの要因であるの で、今後も定員適正化計画に基づき、適切な定員管理に努めるとともに、全ての事務事業を点検 見直し等を行い、経常収支比率の改善に努める。

人口1人当たり人件費・物件費等決算額

人件費、物件費及び維持補修費の合計額の人口1人当たりの金額は、減少しているものの 133.583円と類似団体平均を24.965円も上回っているのは、主に人件費が要因となっている。これ は、平成17年1月1日及び平成18年1月1日の合併により1市6町2村の大型合併となり、類似団体と 比較し、職員数が多く、平均を上回っているためである。今後も定員適正化計画に基づき、適切な 定員管理に努める。